奈良学園中学校・高等学校 令和4年度 学校評価総括表

I 教育活動に関するもの

項目ごとの評価(4段階評価) A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要)

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価	成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標について	<ul style="list-style-type: none"> ・「至誠力行」の校訓の下、次の社会を担い、世界に雄飛する人材を育成する。 ・自己実現に向けて自学自習できる姿勢を育む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針に基づいた各分掌の計画を作成し、教員間で共通理解・共通認識を持ち、教育活動に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習の重要性を伝えながら、より具体的な取組を実施する。 	学校教育目標の教職員間での共通理解が十分に図られており、それに基づいた教育活動が展開されている。
		② 教育計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動におけるルーブリックに基づいた評価を進め、課題研究の充実を図る。 ・第3期SSH指定に向け、研究テーマ及び研究方策を明確にしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SSHベトナム研修を3年ぶりに実施(3月予定) ・課題研究等の探究活動において指導・助言をいただく企業研究者や博物館学芸員等を「探究活動アドバイザー」として委嘱することを決めた。 ・カーボンニュートラル等の持続可能な社会の構築に関連する研究を里山を活用して行う計画を決めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を充実させるため、全教員の対象の研修会を行う。 探究活動の6カ年を見通してプログラムを構築する。 	すべての生徒が、里山という教育環境を十分に享受できるよう工夫が必要である。
		③ スクールポリシーについて	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ビジョン委員会を開催し、スクールポリシー等の策定に向け協議する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ビジョン委員会を開催し、スクールミッション、スクールポリシーの策定に向けて協議を継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールミッションやスクールポリシーを策定し、それに基づき日々の教育活動を教職員全員が実践するよう徹底する。 	知識や技量の習得だけでなく、多様な考え方を尊重し、粘り強さも持ち合わせた人材の育成が必要である。
	(2) 教科指導	① 学習指導計画の立案について	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における教科指導の課題を明確にし、6カ年を見通しての学習指導計画を策定し実施する。 ・大学受験を見すえた観点別評価の研究を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会を開催し、明確になった教科指導の課題を各教科会議にて協議した。 ・大学受験を見すえた観点別評価の研究がさらに必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会で明確になった教科指導等の課題を来年度から改善していく。 	学習指導計画の策定に関わって、学習指導上の課題と改善策が明確化されており、PDCAのサイクルが一定出来上がっている。
		② 指導方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の深い学びや学習内容の定着に向け、授業改善に努める。 ・学力向上推進委員会を設置し、課題を共有し、その改善に向けて協議する。 ・ICTを有効に活用した授業ができるよう研修会を開催し、教員のスキルアップを図る。 (評価指標・観点) ①授業を通して学習内容を深く考えることができているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ②授業は、新たな知識を得たり、疑問を解決したりするために役立っているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ③学校のコンピュータや情報通信(ICT)に関連する施設・設備が充実しているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、教科ごとに研究授業を実施した。 ・全教員対象のICTを有効に活用する研修会を開催し、教員のスキルアップを図った。 ・来年度は高3以外の全生徒が個人持ちのipadを使用することとなった。 ・「探究学習の指導、評価の具体について」の職員研修を実施した。 ・教員がさらにICTの有効活用を学ぶ研修を受ける必要がある。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」90.4%(昨年90.0%)であるが、「そう思う」だけでは42.3%(昨年33.8%)。 ②「(どちらかと言えば)そう思う」93.9%(昨年94.1%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」83.7%(昨年84.0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進委員会を開催し、中学校、高等学校それぞれの課題を共有し、改善の方向を継続的に協議する。 ・ICT教育推進委員会が中心となり、全職員がICTを積極的に活用できるよう、研修会を開催する。 ・すべての教員が、単にICTを活用するだけでなく学習内容を深く考えさせる授業方法を創意工夫しなければならない。 ・すべての教員が、探究型授業の展開に向け研修を重ねていく。 	授業研究や教員研修に熱心に取り組まれており、それらを踏まえて授業改善がなされている。 個人持ちiPadの使用方法・活用方法を保護者に対しても周知する必要がある。
		③ 道徳(人権)教育	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳(人権)教育年間計画に基づき、生徒の実態に合った道徳(人権)教育を工夫して行う。 ・人権に関する様々な課題について、当事者意識を持たせるなど、人権意識の向上を図る。 ・生徒一人一人の人権意識を高め、人権への理解を深めるため、生徒会及び専門委員会等による人権意識を持った取組を推進する。 (評価指標・観点) ①「道徳」の時間、ホームルーム活動の時間や人権講演会などを通して、適切な人権教育が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②学級活動の時間やホームルーム活動の時間などで、自分の生き方、あり方について考える機会があるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育部による「心のプリント」を毎月配布し、生徒の人権意識を高めた。 ・高校生には染谷西郷氏(FUNKISTボーカル)の講演(歌)を、中学生にはちゃんへん氏による講演(ジャグリング)を実施した。 ・生徒会・各委員会において、人権啓発を意識した取組を展開できた。 ・中学校「特別の教科道徳」の3年間を見据えた指導計画の改善が必要である。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」94.1%(昨年90.7%)であるが、「そう思う」だけでは31.5%(昨年32.7%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」75.5%(昨年68.9%)であるが、「そう思う」だけでは29.1%(昨年26.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームや学級活動の時間などにおいて、人権教育計画に基づき、生徒の実態に合った人権教育を各担任が工夫して行う必要がある。また、人権に関する様々な課題について、自分と他者の違いを認め合い、互いを尊重することについて考えさせるなど、当事者意識を持たせながら進める必要がある。 ・地道で継続的な取組により、人権意識の向上を図る。特に、生徒会及び専門委員会等による人権意識を持った取組を自主的なものにする。 	人権意識の涵養に向けて、様々な取組が系統的になされている。

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価	成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
I 教育活動に関するもの	(4) 特別活動等	① 生徒会活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染状況を注視しながら、生徒の自主的・主体的な取組ができるよう指導・助言を行う。 ・ホームルーム活動や特に中学校での学級活動において、生徒の自発的、自治的な活動が展開できるよう、計画的な事前準備を行う。(評価指標・観点) ①生徒会(委員会)活動やホームルーム(学級)活動に積極的に取り組んでいるかどうか。<生徒アンケート結果より> 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員・文化祭実行委員会が中心となり、保護者にも参観していただけるよう、細心の感染防止対策を踏まえた企画と運営を自主的かつ主体的に行った。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」67.4%(昨年63.5%)であるが、「そう思う」だけでは中学校では24.5%(昨年22.0%)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の5類への見直しに対応しつつ、今後もコロナの感染状況を注視しながら、生徒の自主的かつ主体的な取組を見守る。 ・特に中学校での学級活動において、生徒の自発的かつ自治的な活動が助長されるよう、計画的な事前準備を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が意欲的に活動できるよう、さらに当事者意識を持たせて取り組ませる必要がある。
		② 部活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動をとおして、心身の健全な育成のみならず、挨拶等の礼儀や協調性を育む。 ・部活動と学習の高いレベルでの両立ができるよう、その取組方法や意識の持ち方などを生徒や卒業生が発表する場を設け、生徒全体の意識改革を行う。(評価指標・観点) ①部活動を通して、生徒の人間形成が育まれているかどうか。<保護者アンケート結果より> ②部活動は充実していたかどうか。<生徒アンケート結果より> ③勉強と部活動の両立ができたかどうか。<生徒アンケート結果より> 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のなか、目標をもって活動し続けることが出来た。学習との両立が課題である。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」88.8%(昨年88.9%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」89.9%(昨年95.0%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」76.4%(昨年88.9%)であるが、「そう思う」だけで29.2%(昨年32.4%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色である文武両道をより高いレベルで実現できるよう、両立ができている生徒やできていた卒業生に、その取組方法や意識の持ち方などを発表する場を設け、生徒全体の意識改革を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者/生徒アンケート結果からも、昨年度に続き部活動の高い教育的効果がうかがえる。次年度も取組を継続されることを期待する。
	(5) 総合的な探究(学習)の時間の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材による講座等を企画するなど、広い視野を養い、興味・関心を高めことができるように工夫する。 ・「課題研究J」が課題研究にスムーズに繋がるものとなるよう、内容、方法を検討する。(評価指標・観点) ①卒業論文(課題研究J)を通して得るものがあつたかどうか。<生徒アンケート結果より> 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生を対象に特別講座「法学教室」「財政教室」を実施した。 ・SSH事業の一環として、科学に対する興味・関心を高めるため、出前講義4回や公開講座4回を開催した。 ・高2で実施する「課題研究」につなげるために中3生全員に「課題研究」に取り組ませた。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」75.7%(昨年88.7%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、外部人材による講座等を企画し、生徒の多様なニーズに対応していく。 ・「課題研究J」が「課題研究」にスムーズに繋がるものとなるよう、内容、方法を体系化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究についても中高一貫教育の強みが活かされている。さらに中高の接続を意識されたい。 	
(6) 進路指導	進路指導について	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現に向け、学年に応じた学力養成のための指導を実施する。 ・各学年での進学セミナーを効果的に実施する。 ・総合型選抜、学校型選抜等の多様な入試に対応するため、学習や課外活動等の取組や成果のポートフォリオ化をより充実させていく。 ・中学校での進路指導、キャリア教育の充実を図る。(評価指標・観点) ①生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。<保護者アンケート結果より> ②学校では、進路を考える指導が適切に行われているかどうか。<生徒アンケート結果より> ③学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。<生徒アンケート結果より> 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において外部模試等を実施するとともに、補習を実施した。高校3年においては志望校別に、大学の名を冠した講座を中心に23講座開講した。また中学1年～高校2年においては、審査や模試の成績をもとに、上位層を伸ばす講座および下位層をフォローする講座を開講した。 ・中3・高1を対象とした京大研修会を京都大学で実施し、151名が参加した。 ・中3・高1を対象とした東大研修会を3月18日にリモートで実施予定。 ・高2生を対象とした冬季セミナーは59名が参加し、最長で朝7時から夜9時の時間帯で学校にて実施した。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」82.5%(昨年76.8%)であるが、「そう思う」だけでは中学校では24.6%(昨年23.8%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」82.2%(昨年77.4%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」80.0%(昨年73.1%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた進学セミナーを効果的に運用するため進路指導部と学年で検討する。 ・大学入試改革への対応の一つとして、学習や課外活動等の取組や成果などについて、ポートフォリオ化をより充実させていく。 ・特に中学校での進路指導、キャリア教育の充実を図るためのプログラムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い職業について、キャリア教育の充実を図る必要がある。 ・自分自身の進路を考える上で、卒業生から助言は、効果的であるので、卒業生の協力をもって得る必要がある。 	

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価	成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
I 教育活動に関するもの	(7) 生徒指導	① 生徒指導について	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活のマナーやルールを理解させるとともに基本的な生活習慣を確実に確立させるよう指導する。 ・生徒指導部と各学年が連携し、日々の面談や「こころといじめのアンケート」等により、いじめに繋がる可能性を早期に発見し、早期に対応する。 ・中学校における基本的な生活習慣の向上を図り、集団における自分を自覚させる取組を行う。 ・教職員が粘り強く生徒理解に努め、生徒の変化に気づき、保護者と連携を図りながら適切な指導を行う。 (評価指標・観点) ①いじめを許さない取組が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②規範意識や基本的な生活習慣が身につくように指導が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③学校では、生活面の指導が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④校内清掃や美化にしっかり取り組んでいるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動やホームルーム活動等とおして、集団生活のマナーやルールを理解させることに努めた。 ・「こころといじめのアンケート」を年間3回実施した。その結果をもとにいじめ問題対策委員会を開催し、早期解決に向けて生徒指導を行った。 ・生徒指導委員会を14回(2月16日まで)開催し、教員間で情報を共有しながら適切な生徒指導を行った。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」84.0%(昨年78.9%)であるが、「そう思う」だけでは20.6%(昨年18.0%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」88.7%(昨年84.5%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」86.3%(昨年83.8%) ④「(どちらかと言えば)そう思う」88.4%(昨年86.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に中学校における基本的な生活習慣の確立のため、各分掌と学年が協議し、重点的に取り組む。 ・生徒指導部と学年団が連携し、年間3回の「こころといじめのアンケート」により、いじめに繋がる可能性を早期に発見し、早期に対応する。 ・規範意識や基本的な生活習慣を生徒に身につけさせるために、すべての教職員が繰り返し粘り強く生徒と向き合う必要がある。 	一人一人の生徒の状況を的確に把握し、個に応じた指導がなされている。 通学時のバスや自転車の乗車マナーについては今後も指導が必要である。
		② 教育相談等について	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制を生徒・保護者に周知することで、そのより有効的な活用を図る。 ・生徒指導情報共有システムを活用しつつ、その効果を検証し、思春期特有の多様な悩みを持った生徒の支援を図る。 (評価指標・観点) ①生徒の悩みを把握して迅速な対応が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②スクールカウンセリングの体制が整い、必要ときに活用できるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③先生は、生徒の悩みや困り事を把握して迅速に対応しているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④必要ときに保健室やカウンセリング室で悩みの相談ができるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B	日常の教職員による相談活動の他に、スクールカウンセラーとの面談を設定することで、相談を必要とする生徒・保護者への対応に努めている。 生徒指導情報共有システム(気付き通信)を活用し、各生徒の課題等を必要に応じて教員間で共有した。 スクールカウンセラー活用状況(2月16日まで) 中学23件のべ155回(昨年23件のべ73回) 高校22件のべ102回(昨年35件のべ102回) <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」79.0%(昨年72.9%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」83.0%(昨年78.0%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」79.4%(昨年75.0%) ④「(どちらかと言えば)そう思う」70.4%(昨年65.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もスクールカウンセラーを週2日配置し、教育相談体制について生徒・保護者へさらに周知する。 ・生徒指導情報共有システム(気付き通信)の有効活用のためシステムの改修を行う。 	教育相談に係る体制が整備されており、徐々に認識も全校的に広がっていることがうかがえる。 教育相談体制の周知だけでなく、とどまらず、カウンセリングを受けること自体への抵抗感を払拭していくことが必要である。

II 学校経営に関するもの

項目ごとの評価(4段階評価

A:極めて達成度が高い

B:概ね達成できている

C:課題を残している

D:課題が多く速やかな改善が必要)

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価	成果と課題	改善方策	第三者委員からの意見
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	校内会議の運営と位置づけ	・学年主任会議、校務分掌の長による校務運営会議、職員会議を定期的に開催し、全教職員が課題意識を共有できるように努める。 ・各校務分掌会議や各委員会を定期的に開催し、学校運営のさらなる活性化を図る。	A	・左記の会議を開催し、報告・相談・連絡により、情報や課題意識について教職員間で概ね共有することができた。	・校務運営委員会及び各委員会をより機能を生かしながら、学校運営のさらなる活性化を図る。	会議や委員会は学校運営のさらなる活性化に不可欠であるが、過度にならないように工夫が必要である。
	(2) 研究・研修	① 校内研修	・教職員の資質及びスキルを高めるため、教育の今日的課題についての校内研修を実施しつつ、AL型授業やICTを活用した授業研究を推進する。	B	・教務部の主導による各教科のICTを活用した研究授業を実施した ・講師を招聘してICTの授業での活用方法についての研修会を実施した。 ・人権職員研修を年4回おこなった。 ・「カウンセリングの視点を生徒指導に生かす」というテーマの研修会を実施した。 ・教育相談の事例研究会を実施した。 ・「探究学習の指導、評価の具体について」の職員研修を実施した。	・来年度は中学1年から高校2年の全生徒が個人用iPadを持つため、AL型授業やICTを活用した授業研究をより一層推進する。	校内研修が計画的になされ教職員の資質向上が図られている。 ICTの教育活動全般での活用等についても実践の中で研究を続けられることを期待する。
		② 校外の研修への参加	・教職員の資質及びスキルを高めるため、校外での研修にも積極的に参加し、研修の成果を各教科等で一層共有していく。	B	・予備校主催の学習指導スキル向上等の研修会は、コロナ禍のなかで多くがリモートによる実施となったが、のべ23名の教員が参加した。 ・県立教育研究所主催の研修会に8講座8名の教員が参加した。	・教科指導に関する研修の成果を各教科等で一層共有していくが必要である。 ・県立教育研究所主催の研修会は、多様な生徒に対する適切な指導に不可欠な内容であり、全職員への一層共有が必要である。	生徒が興味を持って課題研究に取り組むため、教員だけでは指導できない内容については、専門家のアドバイスをいただく体制作りが必要である。
	(3) 安全管理	危機管理体制について	・教員の安全管理の意識を高め、生徒が安全で安心して過ごせる環境作りに努める。 ・防災避難訓練、救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を、引き続き実施していく。特に自転車マナーについての指導を徹底して行う。 ・可能な限りの新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施していく。 (評価指標・観点) ①登校時の安全指導が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②新型コロナウイルス感染症の感染対策が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③学校では、防災訓練を通して、災害時や非常時の避難経路の確認が行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④学校では、登校時の安全指導が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ⑤学校では、新型コロナウイルス感染症の感染対策が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	A	・防災避難訓練を実施し、避難経路等の確認を行った。 ・「救急法等講習会」、「サイバー犯罪防止教室」「薬物乱用防止教室」「自転車安全運転講習会」を各対象生徒に実施した。 ・自転車安全運転のための指導を継続実施した。 ・自転車通学時の事故件数(2月16日まで) 警察・救急車を要請した事故 3件 転倒等で軽傷であった事故 14件 ・新型コロナウイルス感染症の感染対策として、「健康管理カード」のチェック、飛沫防止ガードによる食事時等の感染防止の徹底を図り、クラスターの発生を抑えた。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」89.9%(昨年85.8%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」93.4%(昨年86.8%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」78.4%(昨年75.5%) ④「(どちらかと言えば)そう思う」88.6%(昨年82.2%) ⑤「(どちらかと言えば)そう思う」85.2%(昨年82.4%)	・引き続き、防災避難訓練、救急法等講習会において災害時、緊急時における行動についての知識を深め、適切な行動をれるように指導する。 ・自転車通学時の安全運転とマナーについての指導を徹底して行い、事故件数を減らす。 ・新型コロナウイルス感染症の5類への見直しに対応しつつ、今後も可能な限りの新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施していく。	危機管理については、体制が整えられ、研修や啓発等も十分に行われている。 自転車通学時のスピードの出し過ぎに対して、さらなる指導が必要である。

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価	成果と課題	改善方策	第三者委員からの意見
II 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	保健指導・教育相談について	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健全な心身の発達を促すとともに、必要な情報の収集及び啓発に努める。 教職員はスクールカウンセラーとの情報交換を定期的実施し、専門的な意見を仰ぎ、生徒対応に活かしていく。 スクールカウンセラーを含む教育相談体制を生徒・保護者に周知する。 (評価指標・観点) ①スクールカウンセリングの体制が整い、必要なときに活用できるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②必要なときに保健室やカウンセリング室で悩みの相談ができるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B	<ul style="list-style-type: none"> 「カウンセリングの視点を生徒指導に生かす」というテーマの研修会を実施した。 教育相談事例研究会を実施した。 健康診断を通じた保健指導等をおこなった。また、食物アレルギー事故防止に努めた。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」83.0%(昨年78.0%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」70.4%(昨年65.4%)	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーと教職員との情報交換を定期的実施する。 教員はスクールカウンセラーの専門的な意見を仰ぎ、生徒対応に活かしていくために、研修会を開催する。 教育相談体制について生徒・保護者へのさらなる周知が必要である。 	スクールカウンセリングについて体制が整い、校内での周知が進んでいることが、アンケート結果の肯定的回答の伸びからもうかがえる。 教育相談体制の周知だけにとどまらず、カウンセリングを受けること自体への抵抗感を払拭していくことが必要である。
		① 地域との連携について	<ul style="list-style-type: none"> 地元自治会や近隣の福祉施設と連携しながら、地域とのつながりを深める活動を行う。 近隣住民の学校に対する信頼を深めるために、通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導を徹底する。 各行事をより充実させ、本校教育活動を理解いただくように努める 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあって十分に地域との連携行事ができなかった。 地域の小学生を招いて「奈良学塾」を2回開催した。 「近畿SSH環境活動フォーラム」を本校主催で実施し、里山の再生整備について学術交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣住民の学校に対する信頼を深めるために、通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導を徹底する。 各行事をより充実させ、本校教育活動を理解いただくように努める。 奈良学園の周辺を掃除する生徒たちのボランティアを再開する。 「近畿SSH環境活動フォーラム」を「全国中高生環境活動フォーラム」に改称し、参加者を全国の中高生に拡大して実施する。 	通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導が今後も必要である。 登校時の通学バスによる周辺地域の混雑解消について検討が必要である。
	(5) 家庭・地域との連携	② 保護者・育友会との連携について	<ul style="list-style-type: none"> 育友会本部役員との定期的な懇談や保護者との懇談等をおして、本校の教育について共通理解を図る。 学校評価委員会を組織し、育友会から参加していただき意見を仰ぐ。 (評価指標・観点) ①保護者会や三者懇談、学年だよりを通して、学校の様子をうかがい知ることができるかどうか。＜保護者アンケート＞	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に1回、2学期に1回、学年ごとに保護者会をもち、学校と保護者の相互理解を図った。育友会活動がなかなか実施できないなかで、育友会の役員の方と学校管理職との懇談の場を2回設けた(5月21日、3月4日)。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」91.2%(昨年87.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 今後も本部役員との定期的な懇談を計画し、保護者の意見を教育活動に活かしていく。 	学校と保護者との間で適切にコミュニケーションがとられている。アンケート結果も昨年にも増して良好である。
	(6) 施設・設備	教育環境の整備について	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が連携して学習環境を整備する。 学校施設の長寿命化を図るために計画的な整備計画を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新校務システムにより連絡事項の周知徹底が図れている。 必要に応じて、既存設備の改善・補修に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の長寿命化を図るために計画的な整備計画に基づき進める。 	適切に実施されている。
	(7) 情報管理・提供	① 個人情報の管理・保護について(未)	<ul style="list-style-type: none"> 常に教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示し、継続して注意喚起を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報管理については、全職員に注意徹底を図るよう促し、適切に対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示し、継続して注意喚起を行う。 	適切に実施されている。 引き続き教職員の意識の相互啓発を行われることを期待する。
		情報の提供について	<ul style="list-style-type: none"> HPを刷新し、外部の方にもわかりやすい情報や資料の公開・提供に努める。 (評価指標・観点) ①学校のホームページから最新の情報や必要な情報を得ることができるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞	B	<ul style="list-style-type: none"> HP上で、育友会の協力を得ながら学校行事等の様子を伝え、情報提供に努めた。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」76.6%(昨年75.3%)	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新を頻繁にして、外部の方にもわかりやすい情報発信に努める。 	HPは改善され、見やすくなった。
	(8) 入試及び広報活動	① 広報活動について	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴や教育内容をより理解していただくよう、学校見学会・説明会、塾等でのプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行い、志望者の増加を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策の観点から、少人数による学校見学会を6日間計12回実施するとともに、中学入試説明会を2回、高校入試説明会を1回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴やよさをより理解していただくよう、学校見学会・説明会、塾等での説明会におけるプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行い、志望者の増加を目指す。 多くの地域から受験者が増えるよう広報活動の範囲を広げる。 受験希望の児童・生徒・保護者にわかりやすいHPの改良に努める。 	入試説明会で、卒業生の活用は、大変有効である。
		② 入試事務について	<ul style="list-style-type: none"> 守秘義務を徹底し、入試問題作成、事務作業、採点・発表作業など厳正な入試を滞りなく行っていく。 中学・高校入試実績の分析を適切に行い、入試のあり方の検討に役立てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行った。 Web出願・デジタル採点等の習熟により、入試事務をより円滑・正確に進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行っていく。 中・高の入試実績の分析を適切に行い、入試のあり方の検討に役立てる。 	適切に実施されている。 引き続き厳正に実施されることを期待する。